

令和7年度（2025年度）第1回博物館協議会会議録

開催日時	令和7年9月30日（火） 午後2時～午後3時5分
会議の次第	1 開 会 2 議 事 （1）令和6年度事業報告について （2）令和7年度事業（中間報告）について ①令和7年度企画展等開催状況 ②博物館講座開催状況 ③その他の博物館事業 （3）Innovate MUSEUM事業について （4）その他 3 閉 会
出席委員 （7名）	若山会長，川嶋委員，佐々木委員，武井委員， 山崎委員，岡崎委員，銭谷委員
欠席委員 （4名）	柳澤委員，風間委員，山内委員，大村委員
事務局 出席者	黒田博物館長，熊谷主査，福田主査，大矢主査，三浦主任主事， 内田主任主事

令和7年度第1回博物館協議会会議録

日 時 令和7年（2025年）9月30日（火）

午後2時～午後3時5分

場 所 市立函館博物館集会室

参加者 協議会 若山会長，川嶋委員，佐々木委員，武井委員，山崎委員，
岡崎委員，銭谷委員（欠席4名）

事務局 黒田館長，熊谷主査，福田主査，大矢主査，三浦主任主事，
内田主任主事

【会議内容】

- ・事務局より，委員の紹介および出席状況（11名中7名出席）の報告
- ・博物館長あいさつ
- ・若山会長あいさつ
- ・事務局より資料の説明
 - 1 令和6年度事業報告について
 - 2 令和7年度事業（中間報告）について
 - （1） 令和7年度企画展等開催状況
 - （2） 博物館講座開催状況
 - （3） その他の博物館事業
 - 3 Innovate MUSEUM 事業について
- ・質疑等
 - 川嶋委員
 - ・ Innovate MUSEUM 事業の狙いは，（仮称）総合ミュージアム検討会議の議論の中で，博物館と市民との距離や関わりについての意見が出されていたことから，何かできないだろうかと考え申請した。
 - ・ 文化庁の補助事業で，1年目の補助率は100%。
 - ・ 内容は3つのパートで構成しており，パート1の「創造的なものづくり」では，資料や博物館の環境について，市民と博物館と一緒に検討することを目的としている。これまでの，ただ見るから一步踏み出し，何かを作る，表現することなどを目指しており，リーダーは未来大学の岡本特命教授。
 - ・ パート2「語り伝える」は，函館の歴史や文化財などを研究している人たちに話を伺って，動画にまとめることを計画しており，

リーダーは地域交流まちづくりセンターの仙石理事長。

- ・パート3「創造的な記録」は、デジタル化作業を行いながら、市民の自由な感覚で複製を作成するなど、資料の撮影プラスαの活動を目指しており、リーダーは川嶋。
- ・現在、一般市民のほか高校生、大学生など40数名が参加しており、これからも参加者を増やしていきたいと考えている。
- ・来年の2月8日に、最終的な報告会をまちづくりセンターで開催予定。

佐々木委員

- ・夏休み自由研究講座は、子どもたちにとって貴重な体験だが、複数の講座に参加している子どもはいるのか。

事務局

- ・親も含め複数の講座に参加されている方はいる。

佐々木委員

- ・Innovate MUSEUM 事業の市民参加というところは、博物館についての取り組みとしては新しいもので、今後も求められていくものだと思う。

これから、どうまとめられていくか興味がある。

何かあれば、私も協力する。

武井委員

- ・私も企画展を見て思ったことだが、「函館の博物館にはこんなに資料があるんだ」と見入っていた観光客がいた。

- ・夏休み自由研究講座は参加者も増えており、浸透しているものと考ええる。

- ・子どもだけでなく、大人の体験型講座も増えるといいなと思う。

- ・博物館実習生の受け入れについて、博物館のことを勉強したい学生がいるのはいいことだ。

- ・11月に予定されている講座「酒は飲んでも飲まれるな」があるが、どんな内容になるのか楽しみだ。

事務局

- ・博物館にある、昔の函館の商店の資料を一同に展示するもので、講座では展示解説を行った後に、西警察署の職員に飲酒運転に関するお話をさせていただこうと考えている。

山崎委員

- ・8月まで開催していたロビー展「戦後80年 太平洋戦争と函館」について、8月11日開催の総務課主催「親子フィールドワーク」に子どもと一緒に参加し展示を見たが、子どもが戦争の資料を初めて見たと言っていた。

- ・テレビや新聞で、戦後80年についていろいろとやっていたが、足を運んで実物を見る経験は子どもたちにとって計り知れないものになるので、もう少しスペースを広げて、展示資料を増やしてもらえれば、勉強や経験の場になると思う。

岡崎委員

- ・資料の1日当たりの入館者数について、当年度と前年度の数字が一緒にあれば、比較しやすくなると思うので検討してもらいたい。

- ・Innovate MUSEUM 事業について、来年度以降も継続するのか。

川嶋委員

- ・補助対象期間は最大3年で、2年目の補助率は2/3になるため、来年も継続するためには、自主財源をどうするかの問題があり、来年度の申請は難しいかもしれないが、希望としては、何らかの形で継続的な組織にしていけたらと考えている。

銭谷委員

- ・博物館に初めて入ったのが大人になってからだが、子どもの時に見ておけばよかったと思った。
- ・子どもたちが博物館に来ることで感じることもあると思うし、夏休み講座のような、同じことに興味がある子ども同士が触れ合う機会が増えるといいと思う。